

第6回：匠の技を次世代へ！

プロとして必要な「力量」と「教育」

豊和鍛工流・ISO勉強会

ISOはルールブックではない。
匠の技を守るための武器だ。

「戦略」には「人」が必要だ

Context

前回（第5回）：会社の進むべき道「年度方針」



戦略 (Goals) × 力量 (People) = 成果 (Results)

今回（第6回）：目標を達成するのは、現場の「あなた」



Focus

IMSマニュアル 7.1.2 「人々」：
当社は、プロセスの運用及び管理のために必要な人々を明確にし、提供する。

「力量」とは何か？

力量 (Competence)


ISO Definition

教育、訓練、又は経験に基づいて...

Howa Forging Definition

「匠」

すなわち磨き上げられた“技”



技術の引継ぎ。
ベテランが引退しても、
会社の魂を失わないために。

マニュアルを「現場語」で読み解く

ISOの言葉 (The Manual)

 7.2 力量
(Competence)

 7.3 認識
(Awareness)



仕事ができる
腕があるか？



自分の役割と責任を
わかっているか？

この2つが、品質を動かす両輪となる。

豊和鍛工の「人材育成サイクル」

1. 可視化 (Visualization)

スキルマップ・有資格者リスト

成長サイクル (Growth Cycle)

3. 評価 (Evaluation)

有効性評価・面談










2. 教育・訓練 (Education)

OJT・一般教育・専門教育

これは一回きりではない。技術の変化に合わせて永遠に続くループ。

Step 1: 力量の「可視化」

スキルマップ

	鍛造	検査	熱処理
田中			
鈴木			
佐藤			



1. 安全 (Safety):
危険作業は「有資格者リスト」に載っているプロだけが実施。



2. 成長 (Growth):
「自分ができること」と
「次に学ぶべきこと」を
明確にする。

IMSマニュアル 7.2(1) 参照

Step 2: 教育・訓練とOJT



ここで「匠のDNA」が受け継がれる

OJTとは？

単なる見学ではない。
指導者のもとで
『独り立ち』できるまで
手を動かすこと。

IMSマニュアル 7.2(2) 参照

Step 3: 有効性の評価

~~研修を受けた
= 完了~~

一人で仕事ができる
= 完了

- 業務遂行状況（実際の作業を見る）
- ヒアリング（理解度を聞く）
- 受講態度（姿勢を見る）

教育は、講義が終わった時ではなく、**現場で実践できた時に完了する。**

なぜ「記録」を残すのか？

教育・訓練報告書

信頼

- **技術継承の証 (Evidence) :**
匠の技が、確実に次世代へ渡ったことの証明。
- **信頼の証 (Trust) :**
あなたのプロとしての履歴書。
有資格者であることの証明。

書類作成は「事務作業」ではない。「自分の成長証明書」を作ることだ。

「認識」：プロは「なぜ」を知っている



単に手を動かすだけならロボットと同じ。

プロフェッショナルは、その仕事
顧客や環境にどう影響するかを知っている。

役割と責任

マネージャー・部署長

- 教育の計画を立てる
- 有効性を評価する
- スキルマップを維持する

全社員・現場

- 教育に積極的に参加する
- 「なぜ」を理解する（認識）
- いずれ「教える側」になる

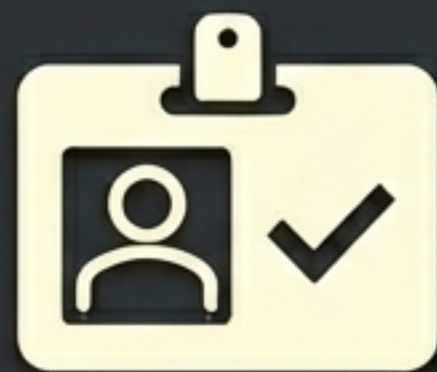
明日から使う「ツール」

スキルマップ表



自分の立ち位置と、
次の目標を確認する。

有資格者リスト



自分が行ってよい作業
(権限)を確認する。

教育・訓練報告書



成長の記録を残す。

これらは官僚的な書類ではない。ハンマーやプレス機と同じ「プロの道具」だ。

IMSマニュアル 7.4

事務局マネージャーからのメッセージ

「ISOは、チーム編成のツールである。」

一人で完璧である必要はありません。

スキルマップを使って、個人の弱点をチームの強みに変えましょう。

ベテランと若手が支え合う、それが豊和鍛工のOJTです。

本日のまとめ



技は資産 (Assets)

「力量」こそが会社の魂である。



現場で継承 (OJT)

技術の引継ぎは、教室ではなく現場で起きる。



記録は証明 (Proof)

文書化は、品質と信頼の証である。

Noto Sans JP 匠の技を、次世代へ。

To Be Continued...

次回予告：第7回

ルールの共有と証拠の保管 ～文書と記録～

なぜ、こんなに書類が多いのか？
その書類が、いかにしてあなたを守るのかを解説します。

